

(C) 無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

赤 旗

(第3種郵便物認可)

政治を動かす

参院議員・比例候補

井上さとし物語^③

国民の苦難軽減のため、現場に駆けつけ市民の声に耳を傾ける日本共産党の井上さとし参院議員。京都と東海北陸信越の広大な活動地域10府県を日夜、駆け回ります。

2024年は、18都府県92市区町村を訪れ、さまざまな声に耳を傾けてきました。

1月1日に発災した能登半島地震では、3日に藤野保史元衆院議員らと共に石川県輪島市の被災現場入りをし、翌4日には、被災者の実態や要望を政府に伝えました。この間、何度も現地入りし、避難所の劣悪な環境の改善や住まいと生業（なりわい）の再建への支援を求め被災者の医療・介護利用料の免除延長や地方自治体によるトイレカーなどの備品確保への支援を実現させました。

■1年たっても

「高齢化と過疎化が進む地

国民苦難に寄り添う

域で起きた。自治体リストラで職員も減らされ、復旧・復興のマンパワー不足で交通の便が悪い上に道路も寸断されている。初動は困難があつたが、それでも1年近かつて遅れているのは人災です。従来の枠にとられない支援が必要で」と強調。次の参院選は、大軍拡や大企業減税の大幅振る舞いの一方で被災者や国民に冷たい自公政治に審判を下す選挙だと述べ、「登にも国民全体にも希望を与えられる政治をつくるため負けられない。頑張りたい」と

意気込みます。

■現場の声届け

多くのフリーランスが一方的な報酬カットや契約打ち切りなどの弱い立場に置かれていることを指摘。最低賃金法や労働時間規制など労働者保護法対象にするよう要求してきました。さらに正社員から個人請負に一方的に契約変更され、正社員と同じ働き方で労働者性が認められない事例も指摘し、労働基準監督署の対応の改善を求めました。

保育の問題では、保育士や保護者の声に耳を傾け、「子どもたちにもう1人保育士を！」の要求を国会に届けてきました。保育士の配置基準の76年ぶりの改定を実現させ、さらなる改定や保育士賃金の公定価格引き上げを要求。政府が待機児童の定義を変えて多くの「隠れ待機児童」が生じていることを指摘し、「全ての子どもたちに質のよい保育を保障すべき」と求めました。

輪島市の被災現場を調査する井上氏（左から2人目） 112024年1月3日、石川県輪島市



学童保育の問題では、大規模化が子どものも途中退所の理由となっていることを示して規模の適正化を要求、専用施設の確保、指導員の抜本的な処遇改善を求めました。